

# 芝山町の 未来予想図

SHIBAYAMA guidelines 2017

施政方針

基本計画

予算概要

3月議会

間もなく、東日本大震災から6年を迎えようとしています。全国各地からの支援や尽力によって、少しずつではありますが復旧から復興へと進んでいる被災地の様子を見ると、私も心強い思いがします。

しかしながら、想像を超える大震災の被害は施設整備だけではなく、心のトラウマになつていられる方も少なくないといわれています。私たち行政としても最大限のご支援をさせていただければと思います。

平成28年度は町職員1名を宮城県山元町に派遣し、被災地の

## 震災からの復興

平成29年度

# 施政方針

3月議会定例会の開会初日である3月6日、冒頭のあいさつに立った相川町長は、平成29年度に向けた所信を表明しました。



芝山町長 相川 勝重

復興のお手伝いをしています。平成29年度には芝山町に戻ってきますが、一年間経験した力や今後の業務に生かしていただければとの信じています。

## 2つの事業が完了

昨年3月には待ち望んでいた2つの事業が完了しました。1つ目はひここうきの丘です。連日飛行機の機体と音を体験しようと多くの観光客でにぎわっているのを見ると、少しずつ認知度が上がり町の観光スポットとして定着してきたのだと感じています。平成29年度には本格的なトイレの設置など施設体制についても検討していきます。

そして、空の駅風和里しばやまではバーベキュー場や体験農園の整備を開始し、これまで以上ににぎわいをつくり出していきたいと思っています。

また、ひここうきの丘や空の駅風和里しばやまを含めた成田空港南側エリアである「スカイパークしばやま」全体を観光資源にできればと考えています。

2つ目は県道松尾線千代田バイパス、町道01-009号線です。この道路の開通により芝山千代田駅前開発の一つが完成しました。道路周辺には保税倉庫や運送会社の駐車場などが置かれ、今後は芝山町初のホテル建設が着工する予定です。

## ふるさと納税と奄美大島

昨年4月にはふるさと納税をしていただいた方への返礼品発送を開始し、順調に寄附を集めています。平成27年度の寄附額は1件2万円でしたが、平成28年度は2月末日現在で寄附件数が約7千件、寄附額が1億6千万円を超えています。

この制度によって農作物を始めとした地元の産品を返礼品にし、地域の活性化と町の知名度アップを図っていきます。

9月には芝山中学校2年生が奄美大島で自然体験学習を行いました。成田―奄美間の飛行機での移動、初めて見る奄美大島の海や豊かな自然、快く出迎えてくれた奄美大島の中学生と盛りだくさんの記憶と経験は、これからの人生にとって大きな役割を果たしてくれるものと期待しています。

## 成田空港の機能強化

同じく9月には、成田空港の今後の発展と地域と空港の共生・共栄という大きなテーマで、四者協議会が開催されました。空港機能強化の基本的な考え方が示され、次の7項目の確認が

されました。

- ①県および空港周辺9市町は、成田国際空港株式会社（以下、「NAA」）が示した案について、地域の皆さまに説明することを了承する。
- ②年間発着回数50万回に向けて、具体的な検討作業を了承する。
- ③環境影響評価の手続きを進めていくとともに、50万回時の予測コンターに基づき航空機騒音防止法・特定空港周辺航空機騒音対策特別措置法の見直し作業に着手する。
- ④成田空港周辺住民との約束事項・重要事項の残された課題を解決する。
- ⑤落下物対策や地域振興策を具体的に進める。
- ⑥前記事項の実施状況を踏まえ、改めて協議し、機能強化策について最終的結論を得る。
- ⑦事業の着手は四者協議会で前記の結論を得た後に行う。

空港機能強化に向けて、全体説明会5回を含め24カ所でNAAの説明会を開催しましたが、皆さまのさまざまな思いを伺うことができました。その中で多くの課題が見えてきていますので、一つ一つの課題と具体的な方向・方針をきちんと示すことが、私たちの役割だと認識しています。

## 10〜12月の出来事

10月には、成田空港を経由して芝山町と東京都品川区大崎駅を結ぶ、成田シャトルが開通しました。新たな東京都心までの交通アクセスとして、都市と地方の大きな架け橋になってくれるものと期待しています。町としても、空港南部地域の大きな交通の柱に成長できるようにしたいと考えています。

そして、11月には「安心・安全でおいしい地下水サミット」が開催され、遠く北海道・福島県からも参加していただき盛況のうちに幕を閉じました。

芝山町は、生活用水を地下水に頼っている町です。そこで、人間が使える水が地球上にどれ位あるのか調べてみました。

水のうち海水は97・5%、淡水はわずか2・5%に過ぎません。その2・5%のうち約70%は南極や北極の氷河で残りの大半は地下水です。この地下水も半分以上が地下800メートルよりも深い地層にあり、私たちが簡単に利用できる水ではありません。結局私たちが使える水は河川や浅い地下水などの淡水

だけで、地球全体の水資源の0・01%に過ぎません。

日本は表流水、地下水をとっても簡単に利用できる国です。これは、将来にわたって残すべき大きな財産です。

12月には、地域の未来を担う芝山中学校2年生に模擬議会を開催していただきました。中学生の鋭い質問は、この地域の将来をしっかりと見据えた意見・疑問の数々であり、大変頼もしく感じたのは私だけではなかったように思います。

## 町の未来へ向けて

この3月議会定例会は、平成28年度の成果を説明し、次なる平成29年度の取り組みを町民の皆さまと約束する場だと思っています。

平成29年度は、成田空港機能強化についての方向性を提示し、全体的な土地利用をはじめとした町の将来像の基盤づくりを進めていく年だと考えています。今後の芝山町の在り方を問う大きなターニングポイントを迎えているものと深く認識し、芝山町の未来が素晴らしいものになるよう、精進していきたく思います。